



《将来に向けた取組方針》

自然との共生に向けて

明治グループの事業は、豊かな自然の恵みの上に成り立っています。生物多様性の損失を止め、反転させるネイチャーポジティブを目指し、将来にわたって「自然と共生」する持続可能な社会の実現に貢献します。カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの課題解決と共に、幅広いパートナーとの連携を図りながら自然資本経営を推進します。

◆30by30目標達成に向けて

明治グループでは、国内に設定した3つの明治グループ自然保全区（根室市牧の内・檜杵地区、関市武芸川地区、KMバイオロジクス（株）菊池研究所内）や、国内外の生産系事業所において地域生態系に配慮した生物多様性保全活動や水源保全活動を行っています。



自然共生サイト
KMバイオロジクス（株）
菊池研究所内
「明治グループ自然保全区
くまもと こもれびの森」

◆持続可能な農業の拡大に向けて

森林減少・劣化を回避し、持続可能な農業に取り組んでいきます。



農家向けカカオ栽培に
関する勉強会

メイジ・カカオ・サポート（MCS）は、カカオ豆生産に関わる社会課題解決に貢献し、持続可能な社会の実現に向けた様々な取り組みを応援しています。

「こもれびの森」は明治グループKMバイオロジクス株式会社の登録商標です。

◆生物多様性関連リスクの低減に向けて（一例）

●温室効果ガスの削減

Scope1、Scope2 における
カーボンニュートラルを目指す

温室効果ガス排出量（2019年度比）



Scope3 における
カーボンニュートラルを目指す

温室効果ガス排出量（2019年度比）



●プラスチック削減による環境負荷低減

ワンウェイプラスチック容器包装の使用量を2030年迄に2017年比で30%以上削減し、バージンプラスチック使用量を2030年迄に2017年比で半減、2050年までにゼロを目指します。

◆今後の課題

自然の恵みの上に成り立っている明治グループは、自然資本への依存と影響をしっかりと把握し、パートナーと連携を図りながら地域社会と共生を目指します。環境への負荷の最小化を図るとともに、それをネットポジティブにするための企業活動を推進することが今後の課題です。